

道北・暑寒別岳

—海に飛び込みような大ダウソヒル—

1990.4.30-5.2 (L) 岩 肇・淳子

今年の5月連休は色々悩んだが、結局、北海道にした。北海道の山は縦走よりは登山口からピストンするコースが多いため、車を使つていくつかの山をハシゴすることにした。関西からな舞鶴小樽間にフェリーがあり、これがかなり安い(車+2人が往復で53030円)ので、この計画にはピッタリである。天気は本州とはほぼ反対で前半悪く後半が良か、たゞ、前半はゲレンデスキーに終始したが、後半、暑寒別岳・旭岳へ夏旭・天塩チトカニウシ山に登ることができた。

暑寒別岳 父の故郷がこの山の麓、石狩平野北部の妹背牛町で私も子供の頃、この山を眺みて雪遊びをしていた想い出がある。この山は道北・増毛山塊の主峰で標高1491m。この増毛山塊は北海道でもニセコと並ぶ豪雪地帯であり、春5月でも海岸近く標高200m前後までナガ雪がある。又、その山脊は大谷やかで北海道の尾瀬といわれる山の雨氷湿原をなすり、夏はヌマザリゲートやよよめいの尾根も、春には山スキーの別天地となる。山スキーのルートはいくつもあるが、今回は増毛登山口暑寒荘へ暑寒別岳往復を狙つた。

4.30 ⑩ 午後、増毛の町に入る。まことに駅前の多田商店で入山届と暑寒荘利用届を出す。暑寒荘は地元・増毛山岳会が管理しており通常はカギがかかるところであるが、この多田商店でキーを借りなければいけない(使用料はタダ)。この日は未だ時々みぞれも降る天気だったが、町内の暑寒別YHに泊まる。幸い

なことに、ニの YH の プラントさん(五日市氏)は 鳥毛山岳会の プテラン会員で、暑寒別岳につい2色々とアドバイスを頂いた。

ニの山の山スキー 通期は 3~5月だが、最も人が入るのは やはり 5月連休で、今年も 4/28~29 に約 20人以上が入山し、五日市氏も入ったが、吹雪の為、7日目までしか行けなかったそうだ。登山者はほとんど道内の人だが 今年は 4月中旬にあく 熊岩樅土山が 登山者で走。熊は 2~3年前まで暑寒荘周辺にもかなりいたが 林道工事の影響で 今は 西の暑寒別川奥に移動して暑寒荘周辺ではあまり見かけなくなったそうだ。但し、ニの山域は 渡島・日高・知床と並ぶヒグマ生息域なので十分な注意は必要だ。

5.1 ① この日も曇り、山は雲の中。朝まし、YH をまことにして 暑寒荘に向う。例年だと 5月連休でも 暑寒荘から 3km 手前の道道終点までしか車は入れないが、今年は 雪が少なく林道に入り 暑寒荘手前 200m の "下" の駐車場まで車で入った。

暑寒荘は 3階建ての立派なもので 中央が吹抜りになつて 12, その 1階にまきストーブがあり、煙突が天井を突き抜け、北国の山小屋らしい風情がある。部屋は 11くつがに分れており、カーペット敷きマットレス、毛布も十分にある。但し 1階はネズ公のジムとなることがあるので 餓羅には注意した方がいい。

午後、3合目の佐上台(593m ピーク)まで偵察に行く。佐上台までは 夏道ルートと 深雪ルートがあり、後者はオーダーメイドコースの為、読圖力と山勘が必要である。今年は 雪不足で 夏道ルートが最初雪が無く、明日の為に深雪ルートを作りに行く。

暑寒荘下の雪をさまで "上" の駐車場から林道に入り、しばらく行くと上に開けた台地に出る。そして林道を離れ疊林の中に入り、又林道に出会う。ここは 檜島 400m ぐらいで、ここから 駐車をトラバース意味に置く。

佐上台の下の台地に上れる。ここから林の中をぐいぐい登れば急に視界があり、日本海が見える。ここが佐上台だ、この頃から雲が切れだし、山頂まで続く大雪原がまろしく輝いていた。

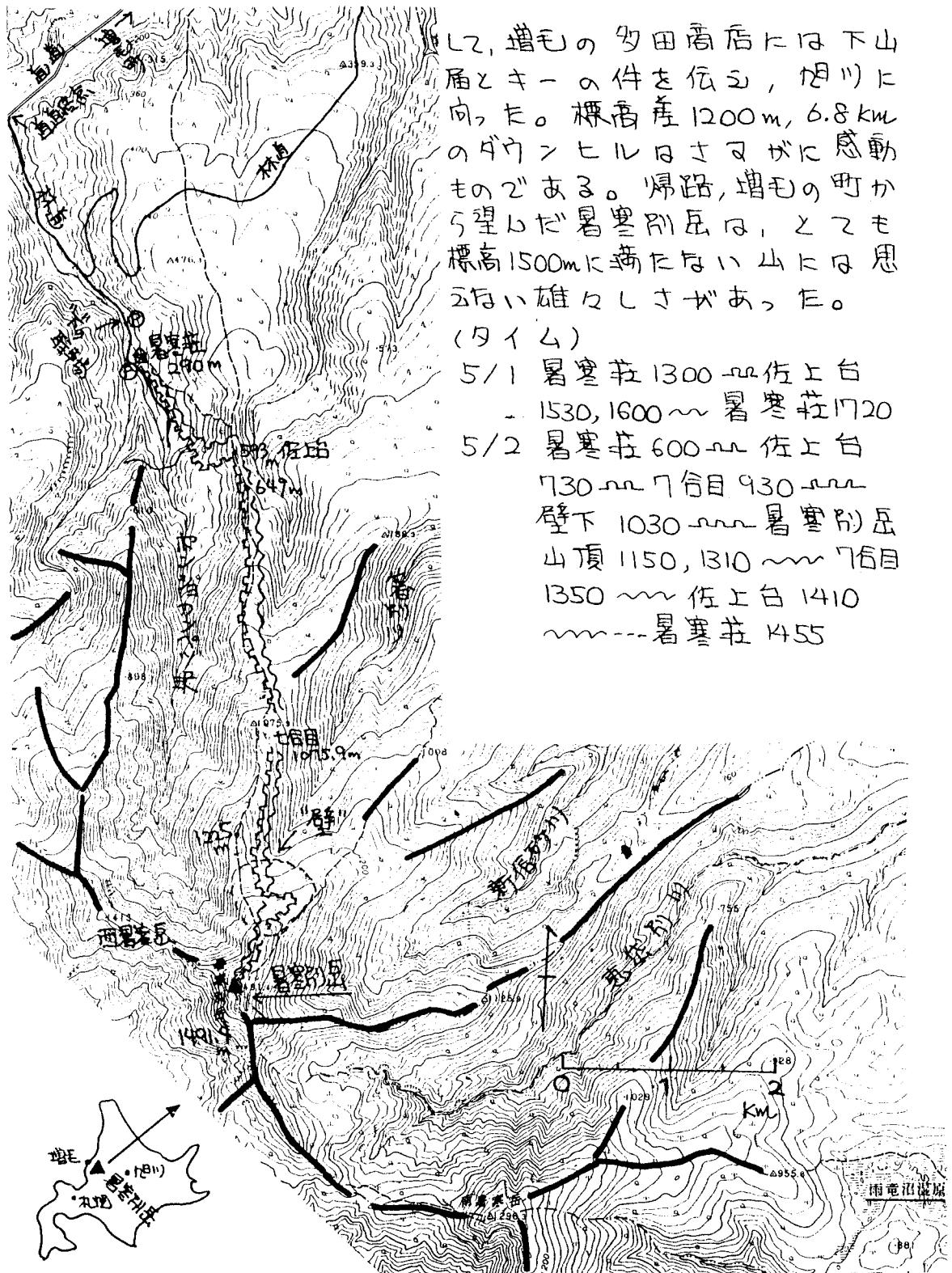
5.2 0 朝4時、窓の外はもう明るい、快晴である。
急いで娘子を起こして朝食の用意をする。

6時出発、昨日行った湯治ハトレー又に従へ佐上台へ、さらに尾根道に進む。649mピークから先はとにかく木の無い広い尾根を行く。まさに山スキーの為のコースである。7合目(10759mピーク)とその先の1225mピーク(東側)をトラバース気味に巻き、山頂直下の"壁"の下に着く。"壁"は箸(いり)の源頭に位置し標高1200~1460mの大斜面である。この山は最後のこの"壁"が最大の価値があり最大の問題である。ニール登行でユルユルと箸別尾根に向ひつつ区切りを切る。ここを登りきり、山頂台地に上ると純白の雨氷湿原が見えなくなる。

山頂は南北に長く、南端に三角点がある。山頂からは大雪・十勝・夕張を始め、石狩湾の向こうには積丹の山々が、さらに日本海の向こうに利尻島が見えた。

さすがウンヒルである。何と言つても爽快なのは海上飛び込みような滑り出しがある。"壁"の上からはまたとにかくひじり日本海の大平原がせま、くる。雪質はフィルムクラスト。娘子は大好きなシュテムで、私は彼女と先に行かせながら、ギュッポン、ギュッポンの感じで飛び込むで行く。1200mから下もまだまだ滑り行けるが登り返しが面倒なので1150mあたりからトラバースに入る。このあたりは斜面がゆるくなり大きめのラレルでぐいぐい下る。斜面が広いので気持ちが良い。佐上台からは登りのトレースに従ひつつ起き出した下生えを払いながら滑る。最後の林道が一部融け始め2100mで暑寒荘手前200mから板と粗い。

小屋では、札幌からの登山者が山菜天アラを作り、2人で、みそをかけを頃く。小屋のキーは2つ持つ渡



して、増毛の多田商店には下山
届とキーの件を伝え、旭川に向った。標高差1200m、6.8km
のダウンヒルロードながら感動
ものである。帰路、増毛の町から望んだ暑寒別岳は、とても
標高1500mに満たない山に思
えない雄々しさがある。

(タイム)

5/1 暑寒莊 1300 及 1530, 1600 ~ 暑寒莊 1720 上台

5/2 暑塞在600m 佐上台

730-7合目 930-730

壁下 1030 暑 壓 形 丘

山頂 1150, 1310 ~ 750

1350 ~ 1410

—着墨并 455